

神輿と闘争の民俗学

浅草・三社祭の
エスノグラフィ

三隅貴史 三社祭の花形である、三基の本社神輿を担いでいるのは誰なのか。神輿の棒を激しい争奪戦で勝ち取ってきた有名神輿会に飛び込んだ著者による、狂騒のエスノグラフィ。A5判・四一六頁／四五〇〇円

麦の記憶

民俗学のまなざしから

野本寛一 多様な農耕環境の中で裏作に組み込まれ、米を主役とする日本人の食生活を陰ながら支えてきた麦。現在では失われた栽培・加工方法、豊かな食法、麦の民俗を紹介する。四六判・三二二頁／三〇〇〇円

政治風土のフォークロア

文明・選挙・韓国

室井康成 私達が知らず知らずのうちに従っている、不可視の行動基準。「民俗」の視座から、日本という風土に醸成された、政治と選挙の「情実」を読み解く。四六判・三六〇頁／三五〇〇円

「面」と民間伝承

鬼の面・肉付き面・酒呑童子

西座理恵 昔話や伝説、お伽草子などの物語に取り入れられ、多彩なバリエーションをもって語られる「面」。伝承や信仰との関係を見据えながら、その豊かな象徴性を明らかにする。A5判・三三四頁／六八〇〇円

ニューカマー宗教の現在地

定着する
移民と異教

三木英編 イスラム教、仏教、福音主義キリスト教、中国系新宗教などが、地域社会との軋轢を乗り越え、日本各地に宗教施設や墓を作り、日本に浸透していくさまを活写する。A5判・二七二頁／四三〇〇円

明治の海を照らす

灯台とお雇い外国人ブラントン

稲生淳 日本政府の役人たちと衝突を繰り返しながらも、全国海難地帯に洋式灯台を建設したお雇い外国人ブラントンと、その灯台がもたらした近代日本の夜明け。四六判・三二二頁／三二〇〇円

日本民俗学の萌芽と生成

近世から明治まで

板橋春夫 「古風」の発見によって江戸時代に芽生えた民俗的関心は、明治以降の近代化の流れの中で、どのように日本民俗学の誕生へとたどりつくのか。その生成過程を丹念に描く。A5判・三二〇頁／五四〇〇円

【新刊】

日本民俗学の創成と確立

椎葉の旅から
民俗学講習会まで

板橋春夫 柳田國男が民俗学へ転進する契機となる三部作から、郷土会の活動や内郷村調査、ジュネーブ滞在などを経て、柳田の民俗学理論が形成され、学界の組織化に至るまでを丁寧を追う。A5判・三三四頁／予価六〇〇円

七月社

〒182-0015 東京都調布市八雲台 2-24-6 / Tel・Fax 042-455-1385

URL: <https://www.7gatsusha.com> / e-mail: info@7gatsusha.com / 価格税抜